



Sustainability  
Progress Report  
2025



Spiber



## Contents

Introduction

3

Impact

4–7

Innovation

8–11

Integrity

12–15

## Introduction

# Impact= Innovation+ Integrity

Spiberの「サステナビリティ進捗レポート2025」は、当社のサステナビリティに関する取り組みの年次報告として、2022年に初めて発行した「サステナビリティ・インパクト・レポート」で掲げた目標とコミットメントに基づいた進捗をご説明します。

本レポートでは、2024年9月から2025年6月までの期間を対象とし、「インパクト=イノベーション+インテグリティ」という、当社のサステナビリティの中核を成すフレームワークに基づく進捗状況を詳細にご報告します。

サステナビリティはSpiberのミッションの中核であり、私たちはあらゆる活動において革新的で責任あるアプローチを追求し続けます。本レポートでは私たちのステークホルダーにとって極めて重要である当社の気候変動対策、再生可能エネルギー、DEI(多様性・公平性・包摂)、持続可能な調達といった主要分野における重要な成果を取り上げています。

さらに、GRI (Global Reporting Initiative、グローバル・レポートング・イニシアティブ) が定めるGRIスタンダードに基づく当社の最新の開示情報は、2025年後半に別途公表する予定です。



# Impact

Spiberでは、理念や価値観を共有するパートナーシップ、製品のイノベーション、そして持続可能なソリューションの事業化を通じて、社会のおよび環境的な影響を測定しています。

本レポート期間における進捗は、Brewed Protein™素材の採用と活用の広がりを通じて、持続可能な未来の実現に向けた私たちの取り組みを一層推進するものとなりました。

## これまでの進捗

### Brewed Protein™ファイバーの採用拡大

Spiberは、世界的なブランドやメーカーとのパートナーシップを拡充する中で、アウターウェア、ニットウェア、デニムといった多様な製品カテゴリーにおいて、Brewed Protein™ファイバーの採用が着実に広がっています。

中でも、THE NORTH FACEから発売されたオービットマクマードパーカは、フードファーパイル部分にBrewed Protein™ファイバーを使用し、ファーのような質感を持つ素材を取り入れた初の製品として、ファッション業界における持続可能な素材活用の可能性を広げるという当社の取り組みの重要な成果のひとつとなりました。



## これまでの進捗

### 生産性の向上

過去1年間におけるプロテインポリマー生産プロセスの技術革新により、当社は2022年と比較して、商業規模での発酵生産性はおよそ2倍まで向上しました。このブレイクスルーは、生産コストの削減や環境負荷の低減に加え、Brewed Protein™ 素材の市場展開をさらに加速させる基盤となり、より広範な社会的インパクトの実現に向けた着実なステップとなりました。



## これまでの進捗

### Brewed Protein™素材の多様な用途に向けた開発

Spiberは、既存の繊維素材の枠にとらわれることなく、Brewed Protein™素材の開発を継続的に進めています。

#### レザーオルタナティブとメンブレンフィルム

合成繊維における高次後加工技術で定評のある小松マテレー社との共同開発により、植物由来の皮革代替素材や高性能な防水メンブレンフィルムの開発を進め、Brewed Protein™素材の応用の可能性をさらに広げています。

#### ファーオルタナティブ

ゴールドウインおよび、高品質なエコファーの開発・生産で世界的に高い評価を得る岡田織物社との共同開発により、フードファーパイル部分にBrewed Protein™ファイバーを使用したオービットマクマードパーカの上市を契機に、植物由来の高品質なファーのような質感のある素材の開発を継続的に進めています。これにより、エコファー、フリース、ボアなどの素材分野において、より幅広い消費者ニーズに応える持続可能な素材ソリューションの実現が期待されています。



# Innovation

イノベーションはSpiberのサステナビリティ戦略の中核であり、環境負荷の軽減、循環型活動の促進、そして包摂性を重視した組織文化の醸成を実現する原動力となっています。

## 温室効果ガスの排出とエネルギー

### コミットメント

2024年までに削減計画を作成し、2029年までに排出原単位をBrewed Protein™ファイバー1kgあたりCO<sub>2</sub>換算で10kgに削減

### 進捗

2024年には、実現可能かつ効果の高い排出削減の機会を特定するため、部門横断的な包括的エンジニアリング分析を実施しました。

この分析により、潜在的な炭素削減プロジェクトの優先順位リストが作成され、それぞれのプロジェクトに対してタイムライン、コスト、および削減効果の見積もりが示されました。

これらのプロジェクトは、2029年までにBrewed Protein™ファイバー1kgあたりの炭素強度を10kg CO<sub>2</sub>eまで削減するという当社の目標達成のために設計されています。

特定されたプロジェクトの着実な実行に加え、必要に応じて戦略的な排出オフセットを補完することで、資金およびリソースの適時確保を前提に、目標達成に向けて順調に進捗しています。



## 循環性

### コミットメント

非可食原料の候補を特定

1. 各種農業廃棄物および副産物を原料として利用するためのプロセスを開発
2. 2026年までに、タイでBrewed Protein™ポリマーを生産するための原料として、年間50トン(乾燥重量)以上の糖を可食サトウキビ由来のものから非可食バイオマス由来のものに置き換える

### 進捗

2025年初頭、農業廃棄物(バガス)由来の糖を最大30%配合した商業規模の試作生産に成功しました。

また、綿花などの繊維廃棄物由来のセルロース糖や、人工セルロース繊維(MMCF)などの原料についても評価を進めています。

現時点の進捗状況から、2026年までに年間少なくとも50トンのサトウキビ糖をバイオマス由来の糖に置き換えるという目標を達成する見込みです。

さらに、SpiberはBioCircular Materials Alliance(バイオサーキュラー・マテリアル・アライアンス)を設立し、現在20社以上のメンバーが参加するアライアンスの主導しています。

本アライアンスでは、バイオサーキュラー製品(生物圏循環型製品)の設計ガイドラインの策定に向けた協働が進められております。詳細はアライアンスの[公式ウェブサイト](#)をご参照ください。



## 職場における多様性、衡平性、包摂

世界的に多様性・衡平性・包摂（DEI）に関する議論がますます分極化する中、SpiberはDEIへの揺るぎないコミットメントを改めて表明します。

私たちは、多様性がイノベーションと成長を促進し、衡平性がすべてのステークホルダーからの尊重と深いエンゲージメントを育み、包摂が社員および地域社会のウェルビーイングに欠かせないものであると確信しています。

### コミットメント

1. DEI研修の実施による社員の意識向上と、よりインクルーシブな企業文化の醸成
2. 2025年までに、Spiberグループの管理職（シニアマネージャーレベル以上）に占める女性の割合を30%以上にする

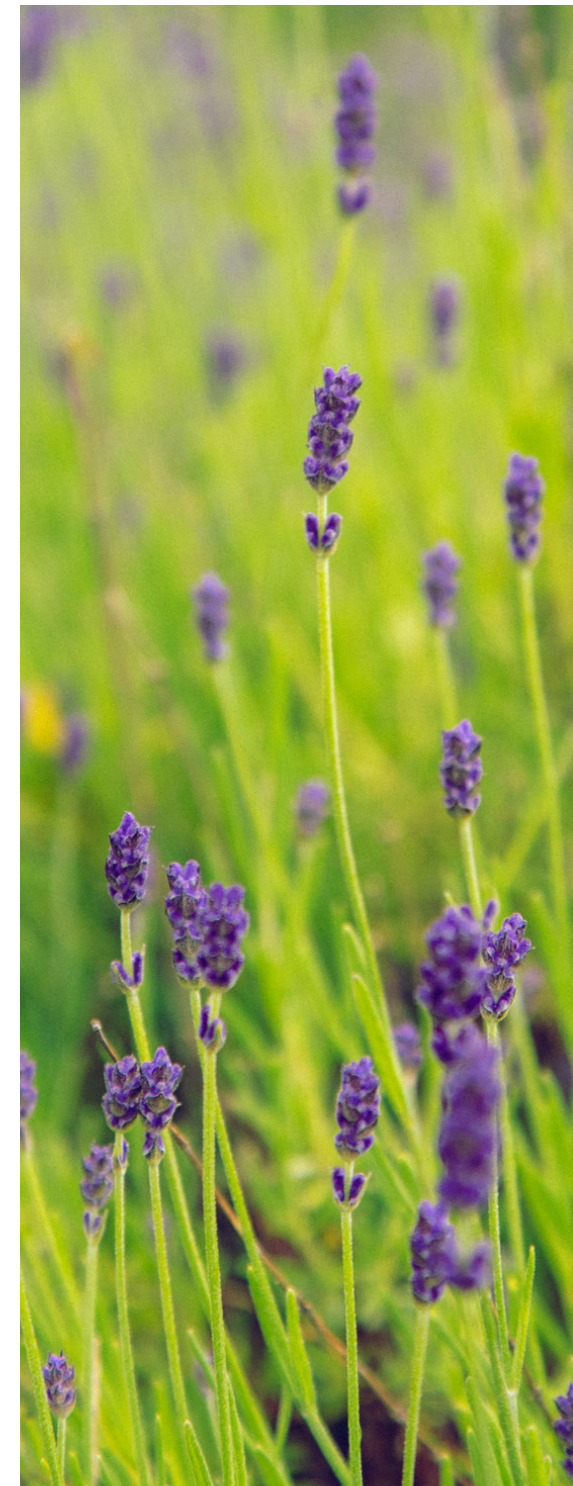
### 進捗

差別やハラスメントの防止、そして包摂的な職場環境の実現をテーマとしたDEI関連の全社必須の研修を年2回実施しています。

また、2023年および2025年には包括的なDEI調査を実施し、社員の意識向上と企業文化のさらなる進化に向けた継続的な取り組みの指針としています。

2024年には、新たに3名の女性シニアリーダーを任命し、2025年6月までに管理職に占める女性比率を27.6%に引き上げる計画です。

さらに、2025年末までに女性管理職の割合を30%にする目標達成に向け、順調に進捗しています。



# Integrity

インテグリティは、私たちのサステナビリティへの取り組みの根幹です。私たちは、環境への影響、サプライチェーン、そして業務品質の管理において、透明性、説明責任、そして継続的な改善を重視しています。

## 温室効果ガスの排出とエネルギー

### コミットメント

1. 2025年、遅くとも2027年を目標に、再生可能エネルギー発電の直接利用や新規設備の建設支援により、使用する電力の100%を再生可能エネルギー由来とする
2. CO2排出原単位、使用エネルギー、再生可能エネルギー使用比率の算出と報告

### 進捗

2023年より、タイではiRECs（再生可能エネルギー証書）と日本では非化石燃料証書を通じて、すべての自社施設で再生可能エネルギー電力を100%使用しています。2025年には、リース施設も対象に加え、総消費量の約1%を占める予定です。

現在購入している再生可能エネルギー証書には、「追加性」（新たな再生可能エネルギープロジェクトへの直接的な支援を意味する要素）が不足していることを認識しています。タイのユーティリティグリーンタリフや日本の電力購入契約（PPA）など、より効果的な代替手段の検討を進めており、2027年中の導入を目指しています。

さらに、2023年には初めてライフサイクルアセスメント（LCA）結果を公表し、GRI年次報告書を通じてグローバルなエネルギー使用量を透明性をもって開示し続けています。

2024年にCDPに提出した2023年の排出量およびエネルギーデータは、中小企業部門において高い評価である「Bランク」を獲得しました。

なお、2024年の包括的なエネルギーデータは、今年後半に予定しているGRI開示情報にて報告する予定です。



## これまでの進捗

### ISO9001/14001認証

2025年初頭、Spiber本社（Jiro、Saburo：本社研究棟と捲縮加工設備の名称）とSpiber (Thailand)Ltd.は、ISO 9001:2015（品質マネジメント）およびISO 14001:2015（環境マネジメント）の認証を取得しました。これらの認証は、品質マネジメント、顧客満足、そして環境責任に関する当社の厳格な基準を実証するものであり、世界中のステークホルダーおよびお客様との信頼関係を強化します。



## 調達

### コミットメント

1. 2023年第2四半期までに、人権インパクトアセスメント(HRIA)によりサプライチェーン内のリスクを特定
2. 当社の持続可能な調達に関する方針を遵守するサプライヤー数の引き上げ

### 進捗

2023年に当社は、サプライチェーン全体を対象とした包括的な人権インパクトアセスメント (HRIA) を実施し、サトウキビ糖 (シヨ糖) の調達が当社事業における最も重要な潜在的リスク領域であることを改めて確認しました。

このリスクに対処するため、当社はBonsucro認証を取得したサトウキビ糖のみを調達し、社会的および環境的に厳格な基準の遵守を徹底しています。

HRIAの実施に続き、2024年初頭には農場訪問やサプライヤーへのインタビューを含む詳細なサトウキビサプライチェーンの評価を行い、サプライヤーの実態把握とリスクの共同管理・軽減体制の強化を図りました。

2024年より、上流原材料サプライヤーの環境・社会リスクを評価するためのサプライヤーアンケートを実施しており、現時点で50%以上のサプライヤーから回答を得ています。これまでのところ、重大なリスクは確認されていません。

また、下流サプライヤー (繊維を糸、生地、またはスライバーに加工する加工業者) の100%、および上流原材料サプライヤーの99%以上 (総購入額ベース) から、当社の持続可能な調達方針へのコミットメントを得ています。

私たちはサプライチェーン全体におけるコンプライアンスの徹底と継続的な改善に向けて、今後も取り組みを進めていきます。



